

今月のトピックス

- | 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- | 市外で麻しんに感染し、さらに家庭内で感染が広がった事例が報告されています。
- | 伝染性紅斑が 2011 年以来の流行となっています。
- | インフルエンザの報告が散見されています。

全数把握の対象

【6 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	9 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
A 型肝炎	1 件	梅毒	2 件
レジオネラ症	1 件	風しん	2 件
アメーバ赤痢	1 件	麻しん	2 件
後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	1 件		

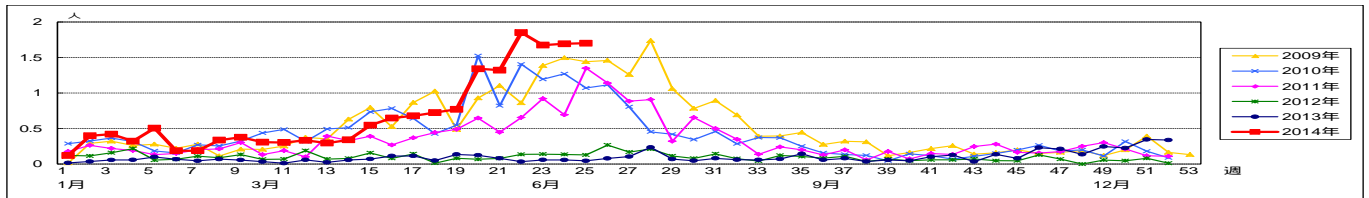
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: O157VT1VT2 の報告が 8 件、O26VT1 の報告が 1 件ありました。原因については現在調査中です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在しますが、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで 75 で 1 分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。また、[国立感染症研究所の報告](#)によると、昨年の菌陽性者が 10 人以上発生した集団感染 22 事例中 19 事例が保育施設における人から人への感染が拡大原因でした。2 次感染予防のためには手洗い、適切なおむつ交換、プールでの感染防止対策の徹底や、遊具など共用する物の清掃および消毒が重要です。
- 2 **A 型肝炎**: 1 件の報告 ( A 型) があり、経口感染が推定されています。
- 3 **レジオネラ症**: 肺炎型 1 件の報告があり、現在感染経路等調査中です。
- 4 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 1 件の報告があり、感染経路感染地域等不明でした。
- 5 **後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)**: 無症状病原体保有者 1 件の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 60 ~ 80 歳代の報告 (いずれも予防接種歴確認できず。) が 4 件、幼児の報告 (予防接種歴 4 回有り。) が 1 件ありました。
- 7 **梅毒**: 2 件の報告があり、1 件は早期顕症 期 (梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹、扁平コンジローマ) で、異性間性的接触による感染、もう 1 件は無症候期で同性間性的接触による感染が推定されています。どちらも感染地域等不明でした。梅毒は近年全国的に増加しており、特に男性の 25 ~ 29 歳で多くなっています。オーラルセックスによる感染の危険性があまり知られていないこともあり注意が必要です。また、感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染すると、先天梅毒の原因になります。
- 8 **風しん**: 学童の臨床診断例の報告が 2 件あり、1 件は予防接種歴が 1 回あり、もう 1 件はありませんでした。
- 9 **麻しん**: 2 件の報告がありました。1 件 (D8) は学童で兄 (市外学校での感染が推定されています。) からの感染が推定されています。もう 1 件 (D8) は 30 歳代で市外の職場の同僚からの感染が推定されています。どちらもワクチン接種歴は確認できませんでした。全国的に麻しんの報告が増加しており、海外からの輸入例から周囲に広まるケースが散見されます。海外渡航歴および海外の人との接触の有無や、職場や学校での流行状況などの問診が重要です。麻しんの予防には 2 回の予防接種が必要です。定期予防接種 (1 回目: 1 歳以上 2 歳未満、2 回目: 5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間) で、麻しん・風しん混合ワクチン (MR ワクチン) を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の [「麻しん検査診断アルゴリズム」](#) をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については健康安全課 (671-2463) にご連絡ください。

## 定点把握の対象

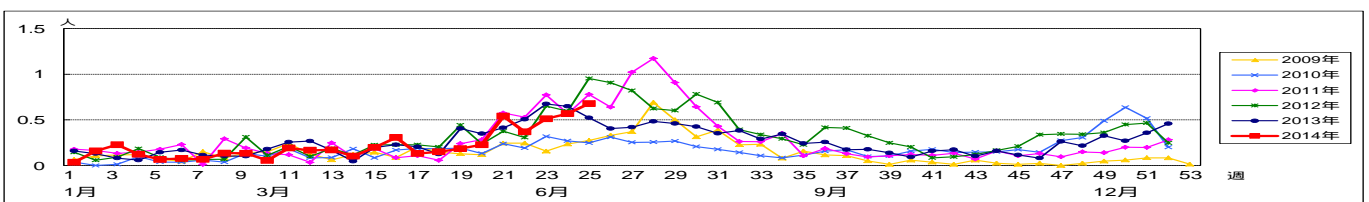
平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 22 週	5 月 26 日 ~ 6 月 1 日
第 23 週	6 月 2 日 ~ 8 日
第 24 週	6 月 9 日 ~ 15 日
第 25 週	6 月 16 日 ~ 22 日

- 1 **伝染性紅斑**: 第 25 週は市全体で定点あたり 1.70 と、過去 6 年間の同時期と比べて報告が最も多くなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルス B19(以下 B19)感染症の臨床像です。B19 感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

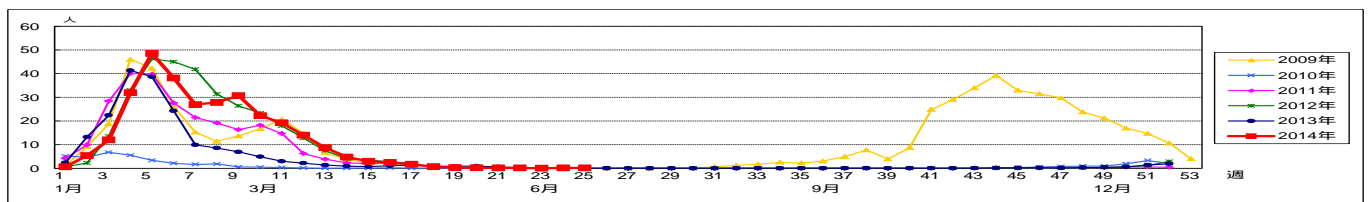
[伝染性紅斑について](#) (国立感染症研究所)  
[横浜市感染症臨時情報:伝染性紅斑](#)



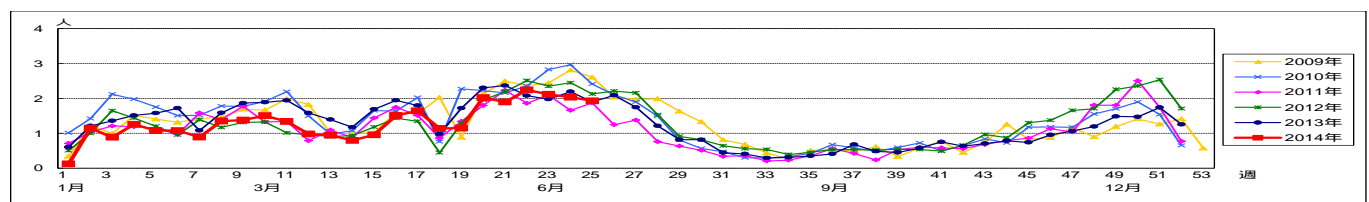
- 2 **咽頭結膜熱**: 第 25 週は市全体で定点あたり 0.68 と、報告が増加傾向ですが、警報発令基準値(定点あたり 3.00)は大きく下回っています。



- 3 **インフルエンザ**: 第 25 週は市全体で定点あたり 0.15 と落ち着いています。都筑区 2.80、瀬谷区 0.50 と報告が増加している区が見られます。報告のあった迅速キット結果の集計では、A 型 94.7%、B 型 5.3%でした。定点医療機関以外でもインフルエンザ患者が発生しているという報告もあり、注意が必要です。



- 4 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 25 週は市全体で定点あたり 1.93 と、例年の同時期と同様にやや報告が多くなっています。



- 5 **性感染症**: 5 月は、性器クラミジア感染症は男性が 22 件、女性が 7 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 12 件です。尖圭コンジローマは男性 5 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 21 件、女性が 1 件でした。

- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 22 週 0.00、第 23 週 0.75、第 24 週 0.25、第 25 週 0.00 と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第 22 週 0.00、第 23 週 0.25、第 24 週 0.25、第 25 週 0.00 と落ち着いています。クラミジア肺炎は第 22 週に 1 件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

- 7 **基幹定点月報**: 5 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 8 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 1 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>